

## 会 議 録

会議の名称		令和7年度つくば市バースセンターに関する懇話会	
開催日時		令和8年(2026年)1月28日(水) 開会 18:30 閉会 19:30	
開催場所		つくば市役所2階 防災会議室3	
事務局(担当課)		保健部健康増進課	
出席者	委員	黒田勇二(なないろレディースクリニック理事長) 前島正基(前島レディースクリニック院長) 本多めぐみ(茨城県つくば保健所長) 間野聡子(市民委員 NPO 法人ままとーん代表理事) 篠崎紗由美(市民委員 助産師)	
	事務局	木本保健部次長兼健康増進課長、川崎統括保健師、糸井保健師長、飯野係長、久保田保健係長、國府田主事	
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数 0名
非公開の場合はその理由			
議題		① バースセンターの利用状況について ② バースセンターでの産後ケア事業について ③ 総合周産期医学寄附研究部門(寄附講座)について	
会議録署名人		_____	確定年月日 年 月 日
会議次第	1. 開会 2. 黒田座長挨拶 3. バースセンターに関する報告 ① バースセンターの利用状況について ② バースセンターでの産後ケア事業について ③ 総合周産期医学寄附研究部門(寄附講座)について		

4. 意見交換
5. 閉会

<報告事項>

<p>黒田委員（座長） 事務局</p>	<p><b>1 開会</b></p> <p><b>2 黒田座長挨拶</b></p> <p><b>3.バースセンターに関する報告</b></p> <p>①バースセンターの利用状況について</p> <p>本日は次第にあります3点について、前回いただいたご意見を含め、ご報告させていただきます。</p> <p>初めに、バースセンターの利用状況についてご報告いたします。</p> <p>資料1「バースセンター等報告資料」の「1. つくば市バースセンターにおける分娩数の推移」をご覧ください。昨年8月より6床から12床に増床いたしました。</p> <p>バースセンターの利用状況については、市の出生数の年次推移を確認すると、徐々に減少している状況ではありますが、令和7年のバースセンターでの分娩数が125件と、例年に比べ増加しています。そのうちつくば市民は107件で、つくば市民の分娩数は例年に比べ最も多い件数となりました。今回病床を増やしたことにより、さらに活用していくため、今後もバースセンターの分娩数を増加していくことが必要と考えています。</p> <p>また、以前の懇話会において、各委員よりご意見をいただいておりますバースセンターの周知についてですが、市と筑波大学でお互い協力して周知を進めています。市では、ホームページや広報紙による周知のほか、妊娠届出時にバースセンターのリーフレット配布を実施しており、前回のご意見を踏まえ、新たに妊娠</p>
-------------------------	---

前からの情報提供として、戸籍届出窓口に設置している結婚情報誌へのリーフレットの封入を実施しています。また、今後はつくバス車内への広告掲示を予定しており、周知の拡大を図っていきます。

また、こちらも以前の懇話会において各委員よりご意見をいただいております見学会の実施や、若い方への認知機会の提供についてですが、筑波大学では、ホームページによる周知のほか、バースセンターを知ってもらうための取り組みとして、まずは附属病院職員に対してバースセンター見学会を実施し、助産師による説明や施設の動画視聴等を行い、59名が参加しました。今後はさらに周知を広げていくため、若い世代の筑波大学病院職員、筑波大学生、つくば市職員、つくば市民に向けた見学会の実施を予定しています。

次に資料2「バースセンターの分娩数推移」をご覧ください。

令和7年の月毎の分娩数を見ますと、8月から件数が多くなっており、昨年8月の増床後にバースセンターを選ぶ人が増えてきていると捉えることができます。

以前の懇話会で各委員よりご意見をいただいております、バースセンター利用者の意見や満足度の調査についてですが、筑波大学においてバースセンター利用者へアンケートを実施しております。アンケート内容としては、バースセンターをどのように知ったか、選んだ理由、助産師の関わり方やご家族の感想などを記載していただいております。

満足度については、記述式の記載内容になっておりますが、助産師の対応がよかったという意見が多く、施設も好評とのことであり、利用者の満足度は高いと評価しています。

今後もそういった利用者の声を含めて周知拡大を図り、バースセンターの認知度を高めたいと考えています。

次に、こども未来センターからあかちゃん訪問アンケート調査について報告し

ます。

あかちゃん訪問時のアンケートについて資料3「令和6年度あかちゃん訪問調査時における市民の出産場所等に関するアンケート調査」をもとにご説明をしていきたいと思ひます。

こちらは市の方で行っているあかちゃん訪問事業ですが、その際にお母様方にいばらき電子申請サービスの2次元コードをお渡しして、そこからアンケートにご回答いただくという形で実施しております。

本事業は、市内に住所を有する概ね生後4ヶ月未満の赤ちゃんまでを対象に訪問しております。昨年度のあかちゃん訪問の件数は2,148件行っておりますが、アンケートの回収件数は1,460件であり、回収率は68%です。

まず出産した医療機関の場所について確認をしております。

市内が66.8%、市外が22.6%、県外が10.6%となっております。こちらについて令和5年度と比較しますと、大きな変化はなく、同じような推移となっております。そして、出産した市内の医療機関ですが、こちらはバースセンターが3.0%、筑波大学附属病院が19.2%、筑波学園病院が12.2%、なないろレディースクリニックが53.5%、なないろもあバースクリニックが12.1%となっております。

こちら令和5年度と比較しますと、令和5年度の割合から増加しているのはなないろレディースクリニックとなないろもあバースクリニックとなっております。

次に、市外県外の医療機関で出産した理由を聞いておりますが、一番多いのは里帰り出産であり、市外県外で出産した方が40%と、令和5年度と同様に多い状況になっています。

本懇話会で毎度重要視している、「市内で予約が取れなかった」と答えた方の割合は2.7%となっており、令和5年度のアンケート調査では5.2%、29名の方が答えていたので、大幅に少なくなっているという状況です。実際「市内で予約が取れなかった」と回答した13名に、どこの病院に予約をしたかったかと伺う

事務局

と、なないろレディースクリニックが 10 名、なないろもあバースクリニックが 2 名、無回答の方が 1 名という回答になっております。

また、資料 3 の下にございます、平成 26 年度から令和 6 年度の「市内で予約が取れなかった方の割合」の推移を見ますと、減少しております。以上です。

## ②バースセンターでの産後ケア事業について

続きまして、②バースセンターでの産後ケア事業について報告します。

まず産後ケア事業が始まった経緯としましては、昨年 5 月に筑波大学から、出産後の産褥期の育児サポートをするため、バースセンターで産後ケア事業を実施したいと申し出がありました。市で内容を検討し、対象者の条件をつけた上で、9 月から産後ケア事業を実施しています。産後ケア事業は、こども未来センターの事業であるため、実施内容はこども未来センターから報告します。

こども未来センターの方からは産後ケア事業について、バースセンターでの状況と市の産後ケア全体の状況を併せてご報告させていただきます。

まず、バースセンターでの産後ケアについてですが、こちらは先ほど飯野のほうから説明がありましたとおり、令和 7 年の 9 月から契約を始め、開始しております。実績としては、実人数 2 名の方が利用しております。

こちらは宿泊型のための契約になるので、日帰りは行っておりません。

産後ケア利用条件としては、生後 3 ヶ月未満のお子様がいる方で、バースセンターで出産した方のみとしております。

では産後ケアの全体の事業の説明と、全体の実績についてご説明させていただきます。お渡しした「つくば市産後ケア事業のご案内」という資料を基にご説明させていただきます。

つくば市の産後ケアですが、種類が 4 種類ございます。

一つは短期入所型、一つは通所型個別、一つは居宅訪問型、最後が通所型集団です。

居宅訪問型については、実際約 3 時間、ご自宅で育児についての相談やお母さんのケアをしております。

通所型集団というものは、日帰りで、何人かのお母様方が集まり、お話をしたり、発達発育に関する相談を受けたり、仲間づくりという機会を設けております。

どの 4 つの項目も、基本的には産後ケアを必要とする理由がある上で、希望する方が利用できるというもので、申し込みをいただいてから面談をします。利用までには、早い方で申し込みをした週から利用が可能ですが、希望の施設によっては 1 ヶ月後の利用となってしまう場合もございます。

どちらにせよ、産後ケアを利用するには、面談をしてからのご案内という形をとっております。

こちらの利用可能期間については、お手元の資料に記載がございますとおり、短期入所型と通所型個別は産後 5 ヶ月未満を目安としております。

そして居宅訪問型と通所型集団は、産後 12 ヶ月未満、つまり 1 歳のお誕生日の前日までご利用いただけます。

利用可能日数は、すべて合計して最大 9 日まで利用できます。

また、利用できる施設についてですが、現在全体で 19 施設と委託契約をしております。

こちらの実績について、令和 6 年度では延べ 556 名にご利用いただいております。実績は毎年伸びておりまして、今年度 12 月末の実績ですと、既に昨年度の 1 年間の数を超えておりまして、712 名の方にご利用いただいております。この勢いでいくと、今年度の利用者数は、1,000 人に届きそうな勢いで増加しております。

産後ケアの種類別の利用割合ですが、令和 6 年度で見えますと、短期入所型が約 65%、そして通所型個別が約 27%、居宅訪問型が約 4%、通所型集団が約 4%強となります。よって最も利用率が高いのは、短期入所型となっております。

ちなみに令和 7 年度 12 月は通所型の施設が非常に増えたということもあり、令和 7 年度の 12 月末までの割合で見ると、通所型個別は 36.8%であり、今年度は通所型個別が増加している状況にあります。

こちらの産後ケア事業ですが、現在こども未来センターの課題として考えているところが 2 点ございます。

1 つ目の課題は、市全体の利用者数が大幅に増えており、産婦が希望する日程で利用できる枠を確保することです。

また 2 つ目の課題としては、リスクのある産婦さんを受け入れる施設が 19 施設ありますが、限られているという点です。

このリスクのある産婦についてですが、こちらで思い描いている産婦は「要支援妊産婦」と言われる、支援が必要な妊産婦になります。

この要支援妊産婦の割合を見ていると、令和 4 年度は 16.7%、令和 5 年度が 25.2%、令和 6 年度が 26.2%となっており、4 人に 1 人はより支援の必要な妊産婦であるという状況の中で、受け入れる施設が増加することを常日頃検討しております。以上です。

### ③総合周産期医学寄附研究部門（寄附講座）について

続きまして、次第③の総合周産期医学寄附研究部門（寄附講座）について報告します。

寄附講座は教授・准教授・講師・事務職員の 4 名体制で運営することになっていますが、令和 7 年度は、4 月から 7 月までは准教授の代わりに講師を 1 名追加して対応し、8 月からは准教授が配置されたことで、正規の 4 名体制となっています。

次年度からはこの体制を維持していくよう、筑波大学に伝えております。

また、現在の寄附講座の協定書が令和 10 年 3 月 31 日までとなっており、今年度は 3 年目であることから、次の協定書を交わすかどうか、交わすとしても

黒田座長

寄附金額をどのように考えるか、人員を現在の教授・准教授・講師の体制とするか等を検討していく必要があります。

資料 1 の 3「産婦人科を専攻する医師及び助産師数」を見てみますと、近年、教授・准教授・講師の人員がそろっている年と、そろっていない年を比較しても、輩出人数にあまり差がない状況であることも、人員の見直しを検討する理由の 1 つと考えています。こちらについては本日ご意見を伺いたいと思っております。以上です。

#### 4.意見交換

報告ありがとうございました。

続いて、①のバースセンターの利用状況について意見交換を行いたと思います。

先ほどお話に出ておりました、なないろレディースクリニックとなないろもあバースクリニックの状況については、令和 7 年でなないろレディースクリニックの分娩数は 1,229 件、なないろもあバースクリニックが 251 件のお産を取り扱っております。

この中でつくば市の方は先ほどの傾向を見ると約半分ぐらいですが、当院としても、茨城県全体が少子化の中、つくば市に集まってこられる患者さんが多いのは重々承知しております。

茨城県全体の感じを見ますと、15 年前は 2 万 5,000 人の分娩があったのに対し、直近では 1 万 5,000 人の分娩しかありません。非常に茨城県の分娩数が減っているという状況で、県南の一部の地域だけがお産が確保できているという状況です。全国的にそのような状況だと思います。

よって、この状況の中でバースセンターのお産数が増加していることは、全体の状況と逆行しており、素晴らしいことだと思います。恐らく、バースセンターの施設展開が新しくなったことも、増加した要因の一つではないでしょうか。

<p>間野委員</p>	<p>ではここで皆様のご意見を伺います。</p> <p>間野委員は身近にお母様方と接する中で、バースセンターについて何かご意見を伺ったりしていますでしょうか。</p> <p>ここに来ると大体「バースセンターのお話は聞きません」と今までお話しすることが多かったのですが、現在は時々伺うようになりました。</p> <p>一方で、バースセンターでの出産を計画していたが、結局バースセンターで出産することはできず、大学病院（一般病棟）に移りましたというお話も同じぐらい伺うことがあります。</p> <p>なので、毎回お伝えしておりますが、やはりバースセンターで出産ができるという条件が厳しいということは変わっていない気がしております。</p> <p>基本は正常分娩で行ける方を条件として受け入れているというお話は聞きますが、その条件が結構厳しめなのかなという気がしています。</p> <p>お話を聞く限り、そんな印象です。</p>
<p>黒田座長</p>	<p>間野委員がおっしゃられたように、筑波大学病院はハイリスクの方も集まってくる可能性があります。現在妊婦全体が高齢化、不妊治療後であり、以前に比べたら当院もハイリスクの方が増えてきており、正常分娩では出産が難しい方は年々増えている印象です。ですので、バースセンターを希望されていても、その場で出産できない方はやはり全体的に増えているのが現状でしょう。</p> <p>篠崎委員はバースセンターについて何かご意見ありますでしょうか。</p>
<p>篠崎委員</p>	<p>昨年行った懇話会では、バースセンターの広報について少しお話しさせていただきましたが、私自身バースセンターについて調べてみたときに、見学会やショッピングセンターで助産師や先生方が集まって、つくば市民の方にバースセンターの様子をお知らせする機会があったり、インスタグラムを見ると、つくば市のバースセンターがどんな施設でどんな雰囲気なのかがわかるので、そういった広報を</p>

	<p>見て、去年あたりからバースセンターの分娩件数が増えたのかなと思いました。</p> <p>今までは少しベールに包まれ、資料だけを見て、どんな感じなのかわからず、少し緊張しながら電話をかけた方も多いと思いますので、そういった広報は市民の方が知るきっかけになったのではないのでしょうか。</p> <p>また、やはり2人目、3人目の出産となったときに、上のお子さんが立ち会うことができるところや、面会で上のお子さんと一緒に過ごせるという環境が非常にいいなと思ったので、そういったところにニーズを感じている方は、バースセンターで出産したいと思い、選ばれているのかなという印象は受けました。</p>
黒田座長	<p>ありがとうございました。</p>
	<p>前島委員は医療機関側の目線で何かご意見ありませんでしょうか。</p>
前島委員	<p>前島です。今年もよろしくお願いいたします。</p> <p>まず驚いたところは分娩数の推移がかなり増えているということで、宣伝広告が非常に上手くいったのだと思います。</p> <p>前回の懇話会では、確かもう少しバースセンターについて周知したほうが良いのではないかという話をしたように記憶しておりますので、その効果が分娩数の推移に表れているのだと思います。</p> <p>また、アンケートの調査を見ると、問題視しなければならない「市内で予約を取れなかった」と答えた人についてですが、2.7%と減ってきており、昨年に比べても減少傾向にあるということを考えると、出産施設設備という観点で見れば、つくば市は充実してきているのかなという印象を持ちます。予約が取れなかったという人の7割はなないろレディースクリニックさんみたいですので、そういうことを考えると、個人のクリニックの人気があるのかなというのは感じますが、つくば市としての入院施設の充実の点で見れば、良くなっているのだと思います。</p> <p>先ほど黒田座長の方から茨城県全体で見ても分娩数が減っているというお話が出ましたが、私が危惧することは、県北とか県央の分娩施設が減っているということです。そうするとお産をする人が徐々に南に流れてきます。そのため、県南</p>

	<p>で出産をする人がこれから増えてくだろうなというふうに予想しておりますが、その際の対応がどこまでできるのかということが、今後の課題だと感じております。そういう意味ではバースセンターの存在価値は大きいのかも知れません。以上です。</p>
黒田座長	<p>ありがとうございます。</p>
	<p>市としてはどのように考えておりますでしょうか。</p>
事務局	<p>市としても、ここ数年の間に近隣市町村に産科施設が開設され、バースセンターの分娩数も増加し、市内で予約が取れなかった方の割合も減少していることから、市内の産科施設は充足してきていると考えています。</p>
黒田座長	<p>先ほど前島委員や事務局からもお話があったように、バースセンターの分娩数が増加してきていますし、近隣市町村にも産科施設が開設しており、市のアンケート調査でも市内で予約が取れなかった方も減少しているということから、市内の産科施設は充足しているということになると思います。</p> <p>また、バースセンターの利用については、引き続き周知を図っていただければと思います。</p> <p>続いて②の産後ケア事業について意見交換を行いたいと思います。</p> <p>篠崎委員、産後ケアの必要性についてご意見いかがでしょうか。</p>
篠崎委員	<p>私事ですが、昨年6月に出産しまして、つくば市の産後ケア事業を、しっかり最大の回数である5回(宿泊型3回と通所型個別2回)利用させていただきました。ありがとうございます。</p> <p>私が利用した感想になりますが、今回2人目の出産で、1人目のときにも出産や育児に対して不安はありましたが、今回上のお子さんを見ながらの赤ちゃんとの育児というところで、やはり疲れが非常に溜まってしまい、あまり夫のサポートも受けられない状況でしたので、これは産後ケアを利用しないと自分がおかしくなりそうだと思い、面接させていただいて利用しました。</p> <p>だいたい月に1回ぐらい予約をとり、予約した日まで頑張り、利用する際には</p>

<p>黒田座長</p>	<p>リフレッシュさせていただいて、また次まで頑張ろうという形でやっておりました。先ほど伺ったように、産後ケアの件数が増えてきているということでしたので、初めての方ももちろん、2人目、3人目のお産をされる方も産後ケアで、これからの育児を頑張っていくために利用したいという希望の声も多いと思います。私は自分自身が利用させていただいて、非常に心身ともに健康を保つことができているなというように感じました。ありがとうございます。</p> <p>産後ケアを利用されてよかったですね。</p> <p>間野委員は産後ケアについて、何かご意見ありますでしょうか。</p>
<p>間野委員</p>	<p>産後ケアは利用する方が増えているとのことで、私もやはり話をよく聞きます。本当によかったという話が多いです。</p> <p>どこにも頼れず、頑張りすぎてしまっはいるものの、産後ケアでリフレッシュして、何とか自分を保っていたというお話はよく聞きます。</p> <p>ですがそれを聞いてもう一つ思うことは、今は核家族が増えており、ご近所付き合い等も非常に少なくなっています。その影響で昔だったらママ友さんに「少し見ておいて」みたいなやりとりができていたところが、今そういうことが非常に難しくなっていたり、そういったコミュニティー力が少し低下しているのかなということを感じます。</p> <p>なので、産後ケアは使えるということであれば、絶対使いたい人はたくさんいらっしゃると思いますし、出産の数があれば、それだけ産後ケアを使いたいと希望する方も多くいらっしゃると思うので、維持をすることは大変だとは思いますが、今後も保っていただきたいです。それと同時に、もう少し前段階で、コミュニティーの中で助け合いみたいなものがあると、産後ケアを利用しなくても何とかなる方も一定数いらっしゃるのではないのでしょうか。子育て支援拠点などもございますので、そういうところと繋がっていたり、そういった行き先があると知っていれば産後ケアを利用せずに済んだというお声も伺います。</p> <p>なので、産後ケアのサービスや事業の充実ももちろん大事ですが、何か違う視</p>

<p>黒田座長</p>	<p>点からで、別のサポートの方法もあるのかなと感じます。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>前島委員も何かそのような活動されていますでしょうか。</p> <p>産後ケアについてのご意見も踏まえながら、お願いします。</p>
<p>前島委員</p>	<p>産後ケアは難しい問題だと思っております、うちに来る患者さんでも、やはり産後の気分障害や辛いとおっしゃっている方もいらっしゃるのです、そういった方への対応については私だけでは難しく、助産師さんにやってもらっていたり、あるいは今筑波大学病院から外来の方に、心療内科の先生に来てもらって対応してもらっているのが現状です。先日ラジオを聞いた際に、アナウンサーの方が産後ケアを使って非常に助かったということをおっしゃっていました。やはり産後ケアのニーズは高いだろうなというふうに思います。</p> <p>そういう意味では、前回もお話ししているとおり、バースセンターの産後ケア事業を進めていくことは非常に重要な内容だと思います。</p>
<p>黒田座長</p> <p>事務局</p>	<p>事務局として、どのようにお考えでしょうか。</p> <p>市としては分娩数の推移を見ていくのと同時に、産後ケアの利用状況を見ながら、分娩数に支障がない範囲で産後ケアの拡大についても検討していきたいと考えています。</p>
<p>黒田座長</p>	<p>まとめますと、バースセンターの分娩数が増えているため、今後も分娩数の推移を注視していただきたいと思います。また産後ケアについては、先ほど利用枠を増やすことが課題と話していたので、バースセンターでの産後ケア事業の間口を広げることで、出産から産後までの支援体制が充実し、分娩数を増やすことにも繋がると考えられるので、今後のバースセンターの利用を促すためにも、筑波大学で出産した方も産後ケアを受けられるようにするなど、間口を広げられるところは検討していただければと思います。</p>
<p>間野委員</p>	<p>先ほどの報告の中で、筑波大の産後ケア事業については「バースセンターで出産した方のみ」という条件がついていることがとても気になっていて、今黒田座</p>

事務局	<p>長もおっしゃっていましたが、筑波大でご出産された方は対象外ということになるのでしょうか。</p> <p>現時点ではバースセンターで出産された方のみが対象です。</p>
間野委員	<p>どうして筑波大でご出産された方は対象外なのでしょうか。</p>
事務局	<p>まずバースセンターで出産した方のみと条件をつけさせていただいたのは、昨年分娩数が下がっていた状態でしたので、基本的には分娩数を増やすことが最優先というところがあり、その中で産後ケアも実施するという事も踏まえた結果、バースセンターで出産した方のみが利用できるという条件をつけさせていただきました。</p> <p>付け加えさせていただきますと、私どもと筑波大の方で協議した中で、バースセンターで出産した方のみという条件付きで産後ケアをスタートしたということです。</p>
間野委員	<p>基本的な質問で申し訳ないですが、バースセンターで産後ケアを受ける場合は、宿泊をしていただくような形で対応しているのでしょうか。</p>
事務局	<p>おっしゃるとおりです。</p>
間野委員	<p>まずは分娩数の確保ということが目的だったということですね。ありがとうございます。私も筑波大学病院で出産しましたが、同じように筑波大学病院でご出産される方は非常に多いと思いますので、同じ大学病院の中であればバースセンターの産後ケアを利用できるようになると非常に良いかと思います。</p> <p>現在、産科の病棟も非常に快適にはなっていると思いますが、バースセンターのホテルライクな感じというか充実さというか、施設の綺麗さがすばらしいので、そこでご出産された方は非常によかったという話も聞きます。せめて産後ケアだけでも、バースセンターの施設でゆっくり過ごすことができると良いのではないかと思います。</p>

前島委員	<p>先ほどのお話に合わせて、私が思うのは筑波大学でご出産された方はどうしても合併症がある方もいらっしゃると思いますので、帝王切開になる率が高かったりすると思いますが、そのように帝王切開をした女性たちはそれに対する重みを感じ、心理的に様々な負荷を抱えているので、そういった方々が産後ケアを必要としているケースも多くみられます。</p> <p>そういう意味では、バースセンターの産後ケアと筑波大学病院での出産を繋ぎ合わせて考えていく方が効果的ではないかなという気がします。</p>
間野委員	<p>あともう一つ確認したいのですが、バースセンターでは無痛分娩は対応されていらっしゃるのでしょうか。</p>
事務局	<p>バースセンターでは無痛分娩の対応はしておりません。筑波大学の方でも、医療的に必要な方には無痛分娩をするそうですが、基本的にはその希望に応じてできるというものではないということを確認しました。</p>
間野委員	<p>無痛分娩でご出産された方には、非常に楽だったという話も聞きますので、経験者の方のそういったお話を聞いて、第一子から無痛分娩を選択される方も増えているという印象があります。</p> <p>そうすると、なおさら筑波大病院ではなく、無痛分娩に対応している病院でご出産されるという動きも出てきているという印象があります。</p> <p>なのでそのあたりのバランスをとっていただけると良いかと思います。</p>
黒田座長	<p>つくば市では産後ケアのニーズがありますが、実際つくば市の産後ケアの状況が不明なのでご教示いただけますでしょうか。</p>
事務局	<p>つくば市では現在 19 施設と委託契約をしており、市内の施設の方が利用率は高いです。ですが、希望の日時で市内の利用施設で予約が取れないときは、市外の施設も利用されているのが現状です。最近非常に利用が増えているところは、つくば市内からも近い、つくばみらい市の遠藤レディースクリニックです。</p>
黒田座長	<p>先ほど間野さんからいただいた意見のように、バースセンターだけにこだわらず、筑波大学病院で産んだすべての方がバースセンターを利用できるようにする</p>

事務局	<p>といったことは、市からの筑波大学病院へのご依頼でできるようなことでしょうか。</p> <p>今のご意見等を踏まえ、筑波大学病院の方にもこういった意見が出ましたというところをお伝えしながら、拡大できるかどうか確認させていただき、できれば市としても事業を拡大したいと思います。</p> <p>いただいたご意見を踏まえ、筑波大学病院へ交渉させていただければと思います。</p>
黒田座長	<p>私も先ほど懇話会が始まる前に確認しましたところ、なないろもあバースクリニックでご出産されて産後ケアを利用する方もいる一方で、初めてなないろもあバースクリニックの産後ケアを利用し、次の出産のときはここで産みたいと思ってくださる方もいるといった相乗効果があるみたいです。なので、筑波大学病院でご出産された方がバースセンターの産後ケアを利用できたら、次の出産のときはバースセンターで出産するといった、そういう相乗効果が生まれてくるのではないのでしょうか。大学の事情もありますから一概には言えませんが、そういった動きを市のほうから働きかけてもよろしいのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>ご意見ありがとうございます。黒田座長からお話いただいたことも含めて、市の方から筑波大学のほうにお話をさせていただければと思っております。ありがとうございます。</p>
黒田座長	<p>続いて、③の総合周産期医学寄附研究部門(寄附講座)についての意見交換を行いたいと思います。</p>
間野委員	<p>間野委員は市民目線で寄附講座について、何かご意見ありますでしょうか。</p> <p>先ほどの報告で、講座によって効果としては産婦人科を希望される医師や助産師の数について報告がありましたが、今後もつくば市ではお産の数はまだ増える傾向にあると思いますので、できれば医師や助産師がぜひつくば市のほうに定着していただければと思います。ただ体制については大学の方との相談になると</p>

<p>黒田座長</p>	<p>はと思いますが、教授や准教授といった役職だからというよりは、妊産婦や赤ちゃんに対しての熱意や、そのあたりのやりがいや熱量がある先生方に、ぜひ引き続き講座の方は続けていただきたいと思います。</p> <p>篠崎委員は助産師さんとして助産師側の目線で寄附講座について何かご意見ありますでしょうか。</p>
<p>篠崎委員</p>	<p>先ほどお話しいただいた間野委員のご意見と少し重複してしまっていますが、講座の人員構成に変動があったという報告をいただきましたが、寄附講座を受ける助産師もしくは助産師を希望されている方の満足度や意見といったところを伺いたいです。</p> <p>人員構成により、講座があまり良くなかったということやスケジュールが煩雑だったといった意見があるのかと思いました。</p> <p>なので教える側の人数が変動したことで、講座へどんな影響があったのかを伺いたいです。</p>
<p>事務局</p>	<p>筑波大からは寄附講座において、教授が不在だった期間も講師の方で対応ができたというところで問題なくクリアできたというお話は聞いております。</p> <p>なので、役職によって講座自体に差はないと、市としては感じているところで</p>
<p>黒田座長</p> <p>前島委員</p>	<p>ありがとうございます。前島委員は何かご意見ありますでしょうか。</p> <p>私も大学のことはよくわからないため口を挟めませんが、現在の医師や助産師の数で実際にやっていけるのかどうかというところに少し疑問は感じます。そういった意味で、人数の見直しができる講座なのであれば、人員体制の見直しも重要な要素であると思います。</p>
<p>黒田座長</p>	<p>寄附講座については、人員体制の人数見直しや人員構成の見直しなどを検討していただき、今後もこの懇話会で引き続き協議していきたいと思います。</p>
<p>前島委員</p>	<p>先ほど産後ケアのお話の中で、要支援妊婦が26%いるということですが、この数字は10代などの若年者の妊婦が大半でしょうか。</p>

<p>事務局</p>	<p>要支援妊婦の方は精神疾患の既往がある方や若年妊婦、あとは精神的に不安定な状態にあり今後の子育てに懸念があるといった、いくつかの項目にチェックがついた方と市で定めております。そこに当てはまる方が令和6年度では4人に1人、つまり26%ほどいるという状況になります。</p> <p>この中で一番割合が多いのが、精神疾患の方です。</p>
<p>前島委員</p>	<p>ありがとうございます。</p>
<p>間野委員</p>	<p>同じ子育て支援関係の繋がりで伺うのは、つくば市内ではそれほどでもないと思いますが、隣の阿見町のあたりになりますと、それこそ若年であったり、様々な困難がある中で妊娠出産をしてしまうという方も結構多いというお話です。</p> <p>やはりそういった方がつくば市内でもいらっしゃると思いますが、そういった方たちへの支援やつながり方が、つくば市だと中心部と少し離れたところとでは体制が異なったりするので、支援がどこまで行き届き、支援を必要としている方がどこまでつながれるのかというところが、つくば市ではまだ見えていない部分があります。</p> <p>本当に貧困だったりとか、そういった様々な事情で支援の場に出られなかったり、声を上げられない方も結構いらっしゃるのかなと思います。</p> <p>例えば既に動いていただいている方もいらっしゃると思いますが、フードパントリーなどでそういった方と繋がったときには、できるだけ行政の方とつなげたりとか、他の支援団体さんと繋いだりみたいなことができれば良いと思います。</p> <p>お産の関係の部分は、赤ちゃんの高リスクなどにも非常に直結するところだと思っていますので、市民団体のほうもいろいろ動いてはおりますけれども、ぜひ行政の方と情報共有をしながら、支援が必要な方たちをどうにかサポートができないかと考えています。</p> <p>また根本的な話で恐縮ですが、先ほどお産の数の部分で、なないろレディースクリニックやバースセンターその他の医療機関の数に関する報告について、病床数がバースセンターは6床から12床に増えたとお話がありましたが、その他の</p>

事務局	<p>各医療機関の病床数をご教示いただけますでしょうか。</p> <p>出産数というよりも、病床の稼働割合で考えたときに、バースセンターはまだもう少し頑張ることができるのではないかと思います。</p> <p>各医療機関の病床数ですが、一応各医療機関のホームページや地域医療情報システムからの情報にはなりますが、筑波大学附属病院が24床、バースセンターが12床、筑波学園病院が16床、なないろレディースクリニックが19床、なないろもあバースクリニックが10床となっております。</p>
間野委員	<p>そうするとやはりバースセンターは、もう少し稼働割合を高めるため、広報等で頑張っただけだと個人的には思います。</p> <p>逆にバースセンターの利用条件などで、バースセンターで産みたいという希望があっても、利用希望者全員を受け入れられないということも、お産数に影響しているとは思いますが。なのでやはり先ほどお話ししましたとおり、せっかくお部屋があるのであれば、産後ケアで使っていただくとか、ぜひ活用していただけるように調整していただきたいと思いました。</p>
事務局	<p>今のご意見も筑波大との協議の一つとして、挙げさせていただければと思います。ありがとうございます。</p>
黒田座長	<p>事務局では本日の懇話会の意見を踏まえ、バースセンターや寄附講座について筑波大学との協議を継続していただければと思います。</p> <p>以上で意見交換が終了しましたので、これで座長の任を解かせていただきます。ありがとうございます。</p> <p><b>5.閉会</b></p> <p><b>以上</b></p>

# 令和7年度つくば市バースセンターに関する懇話会次第

日 時：令和8年1月28日（水）

午後6時30分から

場 所：つくば市役所2階 防災会議室3

## 1 開 会

## 2 議事

### （1）報告

- ① バースセンターの利用状況について
- ② バースセンターでの産後ケア事業について
- ③ 総合周産期医学寄附研究部門（寄附講座）について

### （2）意見交換

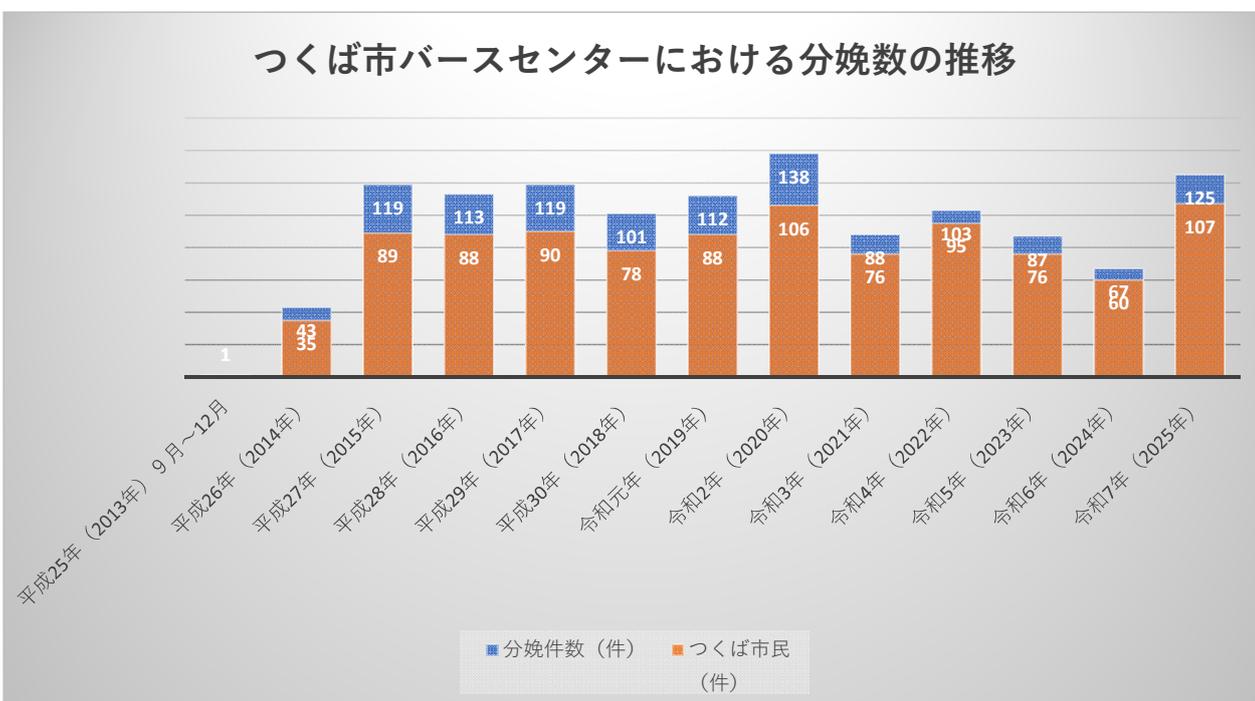
## 3 閉会

1 つくば市バースセンターにおける分娩数の推移

\*年集計（1月～12月）

年	分娩件数 (件)	つくば市民 (件)	つくば市民 割合 (%)	分娩 累計件数 (件)	つくば市民 累計件数 (件)	つくば市民 累計割合 (%)
平成25年（2013年）9月～12月	1	1	100.0	1	1	100.0
平成26年（2014年）	43	35	81.4	44	36	81.8
平成27年（2015年）	119	89	74.8	163	125	76.7
平成28年（2016年）	113	88	77.9	276	213	77.2
平成29年（2017年）	119	90	75.6	395	303	76.7
平成30年（2018年）	101	78	77.2	496	381	76.8
令和元年（2019年）	112	88	78.6	608	469	77.1
令和2年（2020年）	138	106	76.8	746	575	77.1
令和3年（2021年）	88	76	86.4	834	651	78.1
令和4年（2022年）	103	95	92.2	937	746	79.6
令和5年（2023年）	87	76	87.4	1,024	822	80.3
令和6年（2024年）	67	60	89.6	1,091	882	80.8
令和7年（2025年）	125	107	85.6			
累計数	1,216	989	81.3			

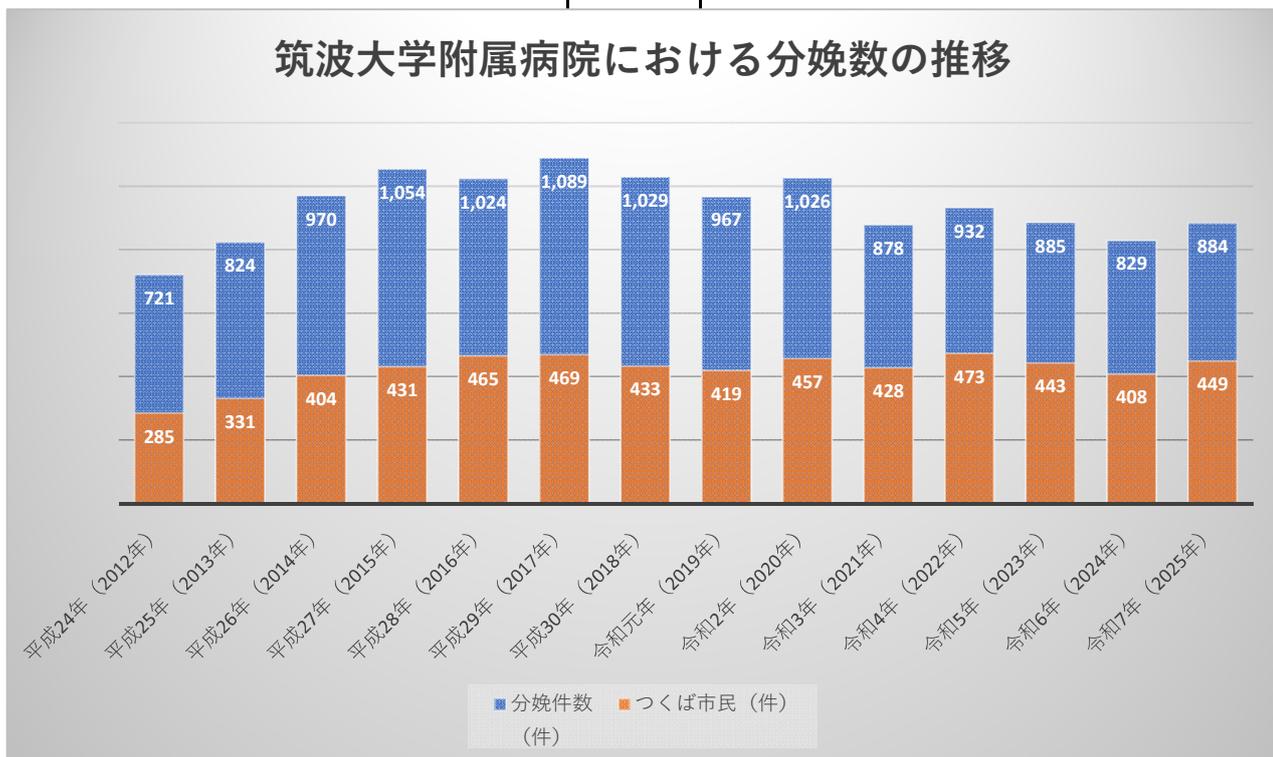
※令和7年は、1～11月実績に基づく推計



## 2 筑波大学附属病院における分娩数の推移 \*年集計（1月～12月）

	分娩件数 (件)	つくば市民 (件)	つくば市民 割合 (%)
平成24年 (2012年)	721	285	39.5
平成25年 (2013年)	824	331	40.2
平成26年 (2014年)	970	404	41.6
平成27年 (2015年)	1,054	431	40.9
平成28年 (2016年)	1,024	465	45.4
平成29年 (2017年)	1,089	469	43.1
平成30年 (2018年)	1,029	433	42.1
令和元年 (2019年)	967	419	43.3
令和2年 (2020年)	1,026	457	44.5
令和3年 (2021年)	878	428	48.7
令和4年 (2022年)	932	473	50.8
令和5年 (2023年)	885	443	50.1
令和6年 (2024年)	829	408	49.2
令和7年 (2025年)	884	449	50.8
累計数	13,112	5,895	45.0

※令和7年は、1～11月実績に基づく推計



### 3 産婦人科を専攻する医師及び助産師数

\* 年度集計

	医師数 (人)	医師の勤務地内訳 (人)			
		筑波大	市内	県内	県外
平成25年 (2013年)	5	1	2	2	0
平成26年 (2014年)	4	1	1	2	0
平成27年 (2015年)	6	2	2	2	0
平成28年 (2016年)	5	2	1	2	0
平成29年 (2017年)	4	2	0	2	0
平成30年 (2018年)	9	1	1	6	1
令和元年 (2019年)	8	3	1	4	0
令和2年 (2020年)	14	4	2	5	3
令和3年 (2021年)	6	2	2	2	0
令和4年 (2022年)	5	2026年3月後期研修修了予定			
令和5年 (2023年)	6	2027年3月後期研修修了予定			
令和6年 (2024年)	8	2028年3月後期研修修了予定			
令和7年 (2025年)	6	2029年4月後期研修修了予定			

**\*年度ごとの後期研修修了時の状況の数を計上する**

	助産師 (人)	助産師の勤務地内訳数 (人)			
		筑波大	市内	県内	県外
平成25年 (2013年)	0	0	0	0	0
平成26年 (2014年)	2	2	0	0	0
平成27年 (2015年)	4	2	1	0	1
平成28年 (2016年)	5	2	2	1	0
平成29年 (2017年)	4	2	0	1	1
平成30年 (2018年)	5	2	1	0	2
令和元年 (2019年)	4	3	1	0	0
令和2年 (2020年)	4	3	0	0	1
令和3年 (2021年)	2	1	1	0	0
令和4年 (2022年)	5	4	1	0	0
令和5年 (2023年)	4	2	1	0	1
令和6年 (2024年)	4	2026年3月大学院助産師養成課程修了予定			
令和7年 (2025年)	4	2027年4月大学院助産師養成課程修了予定			

※本学に助産師養成課程は無かった

**\*年度ごと (大学院修了時) の状況の数を計上**

### 4 筑波大学附属病院産婦人科でのハイリスク妊産婦への対応

(1) 精神疾患既往もしくは合併妊婦分娩数 年間110名 (2025年)

上記ケース全例について、週1回の産科医師、精神科医師、助産師、ソーシャルワーカーによるミーティングを実施し、情報の共有、医学的管理方針の決定を行っている。

**※うちつくば市民の支援数** 年間38名 (2025年：つくば市に里帰りしてきた者を除く)

(2) 経済的に問題のある妊婦 年間約34名分娩 (2025年)

早期からソーシャルワーカーが関与している。

**※うちつくば市民の支援数** 年間約7名 (2025年：つくば市に里帰りしてきた者を除く)

## パースセンターの分娩数推移

【資料2】

【単位：人】

令和2年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
パースセンター分娩数	12	10	6	13	12	20	18	10	14	10	4	9	138
つくば市民	10	8	5	10	10	14	13	9	7	8	4	8	106
つくば以外	2	2	1	3	2	6	5	1	7	2	0	1	32

令和3年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
パースセンター分娩数	11	7	6	13	7	9	5	7	7	9	4	3	88
つくば市民	10	7	4	12	7	7	5	6	5	7	4	2	76
つくば以外	1	0	2	1	0	2	0	1	2	2	0	1	12

令和4年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
パースセンター分娩数	11	6	7	8	4	3	10	23	8	10	6	7	103
つくば市民	11	5	6	8	4	3	10	20	7	10	5	6	95
つくば以外	0	1	1	0	0	0	0	3	1	0	1	1	8

令和5年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
パースセンター分娩数	4	9	5	12	4	7	9	7	6	8	9	7	87
つくば市民	4	7	5	11	4	6	6	6	6	7	8	6	76
つくば以外	0	2	0	1	0	1	3	1	0	1	1	1	11

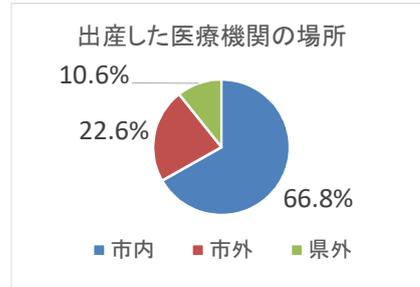
令和6年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
パースセンター分娩数	7	2	4	5	7	5	5	10	4	7	4	7	67
つくば市民	6	2	3	5	6	5	4	9	4	6	4	6	60
つくば以外	1	0	1	0	1	0	1	1	0	1	0	1	7

令和7年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
パースセンター分娩数	7	7	12	7	7	7	8	21	15	10	14	10	125
つくば市民	6	6	9	6	6	7	8	21	13	6	12	7	107
つくば以外	1	1	3	1	1	0	0	0	2	4	2	3	18

# 資料3

## (令和6年度)あかちゃん訪問調査時における市民の出産場所等に関するアンケート調査

- 1 調査の目的 本調査は、市民の出産場所に関する状況把握のため実施
- 2 調査期間 令和6年(2024年)4月1日～令和7年(2025年)3月31日(12ヶ月分)
- 3 調査対象 市内に住所を有する、概ね生後4ヶ月未満の赤ちゃんを持つ母親
- 4 回収件数 1,460件
- 5 調査方法 いばらき電子申請による電子申請アンケート



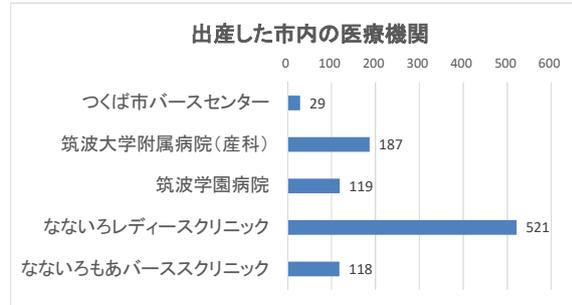
### ■出産した医療機関の場所

	回答(人)	割合
1 市内	974	66.8%
2 市外	329	22.6%
3 県外	155	10.6%
合計	1,458	100.0%

※自宅での出産2件は除く

### ■出産した市内の医療機関

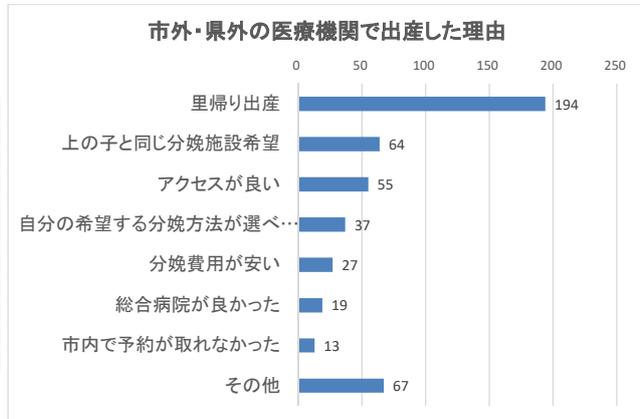
	回答(人)	割合
1 つくば市バースセンター	29	3.0%
2 筑波大学附属病院(産科)	187	19.2%
3 筑波学園病院	119	12.2%
4 なないろレディースクリニック	521	53.5%
5 なないろもあバースクリニック	118	12.1%
合計	974	100.0%



### ■市外・県外の医療機関で出産した理由

	回答(人)	割合
1 里帰り出産	194	40.8%
2 上の子と同じ分娩施設希望	64	13.4%
3 アクセスが良い	55	11.6%
4 自分の希望する分娩方法を選べた(無痛分娩・立ち合い出産等)	37	7.8%
5 分娩費用が安い	27	5.7%
6 総合病院が良かった	19	4.0%
7 市内で予約が取れなかった	13	2.7%
8 その他	67	14.1%
合計	476	100.0%

※8名入力なし



### ■平成26年度～R6年度 市外・県外の医療機関で出産した理由のうち、「市内で予約が取れなかった」の割合

年度	割合
H26年度	15.2%
H27年度	11.7%
H28年度	10.8%
H29年度	8.7%
H30年度	6.6%
R1年度	6.7%
R2年度	9.5%
R3年度	8.7%
R4年度	8.3%
R5年度	5.2%
R6年度	2.7%

